

## オーディオ実験室収載

### オーディオチェック(7) —オーディオチェック CD (4)—

#### 1. 始めに

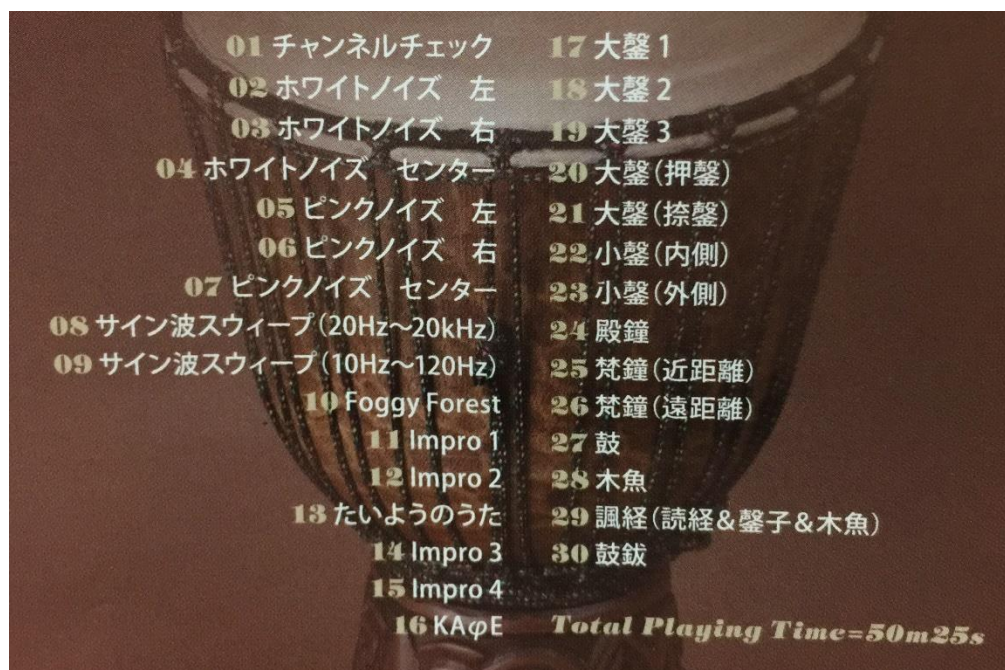
前報(3)に引き続き、CD再生でのチェックを実施しました。

#### 2. オーディオチェック CD の実施方法

今回はオーディオチェック CD を CD ドライブから **fidataHFAS1** にリップングし、**fidataHFAS1** から USB 経由で **BrooklynDAC+** に送り出して再生します。

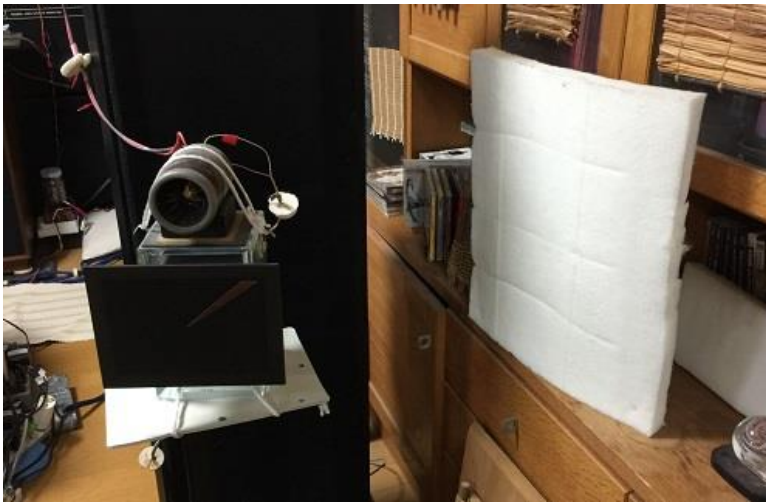
使用するチェックシステムは次のものです。

ステレオ 2023.年 5 月号付録 究極のオーディオチェック CD 2023  
収載されているテスト音源は次のとおりです。



#### 3. オーディオチェック CD の実施結果

前回と異なるところは、再生ラインに仮想アース、電磁波吸収テープ NRF-005T、スピーカーアキュライザーSPA-7などが加わっており、また下掲の写真のように、周波数によって左右のバランスが崩れることを防ぐ反射板や吸音材の手立てを講じています。



以下、各トラックでのチェック結果を述べます。

**Track01** のナレーション音声による左右チェック、正相の中央定位および逆相のチェックは問題なかった。

**Track02** から **Track04** のホワイトノイズによる左右チェック、中央定位は問題なかった。

**Track05** から **Track07** のピンクノイズによる左右チェック、中央定位は問題なかった。

**Track08** のサイン波スイープ(20Hz~20KHz)は、特に凹凸はなかったが、高域は聴力が低下していることが分かった。

**Track09** のサイン波スイープ(10Hz~120Hz)は、特に凹凸はなかったが、 $f_0$ が 27Hzなので、超低域は再生されなかった。

**Track10** の Foggy Forest は、ヴィブラフォンとマリンバのデュオで、アタック感と余韻、マレットの動きがリアルに捉えられている。

**Track11** の Impro1 は、打楽器の即興演奏で、トーキングドラム、カシシ、ジャンベ、ドンドン、太鼓など、馴染みのない打楽器の掛け合いがリアルに再生された。

**Track12** の **Impro2** は、ハビドラム、ウインドチャイム、トライアングル、金属棒、ウドゥドラム、バードコール、ストリングビーズ、お鈴などが次々と現れる。

**Track13** のたいようのうたは、マリンバ、ヴィブラフォン、パラフォン、カリンバ、ジャンベ、シロフォン、グロッケンシュピールなど、なじみのある楽器とそうでない楽器が入り混じって演奏される。

**Track14** の **Impro3** は、ドラブッカとビリンバウの演奏である。

**Track15** の **Impro4** は、5人によるアングルンの合奏である。

**Track16** の **KAφE** は、カホン、ボンゴ、コンガに鳥や豚の啼き声を真似たおもちゃの音が混じる。

以上、**Track11** から **Track16** は聴きなれない楽器が多く、再生の精度は判断しにくいですが、録音の程度は良さそうです。ステレオ誌では、聴きどころの解説が記事になっています。

**Track17** から **Track30** は、仏教寺院で使われる種々の鐘や木魚などの仏具や梵鐘の音、読経などが収録されています。

#### 4. まとめ

スイープ信号や位相のチェックでは、聴力の及ぶ範囲では検知可能であり、システム上の問題は検知できませんでした。左右の音のバランスは、対策が功を奏しているようです。パーカッションの演奏や仏教寺院の音は音マニアには参考になるかもしれません。

以上